

「紀要」50号の発刊に寄せて

大阪信愛女学院短期大学
学長 高坂 祐夫

カトリック精神に基づく人間形成を建学の理念として設立された大阪信愛女学院は、1884年（明治17年）開設の信愛女学校に始まり、本年で創設132年を迎えます。

短期大学は1959年（昭和34年）に設立され、その後、学科名称の変更および定員増等の変遷を経て現在、子ども教育学科、看護学科の二学科を設置（収容定員480名）、時代・社会が求める有為な人材を養成し社会貢献をしてきました。

短期大学には、こうした教育活動とともに学問と真理の探究の使命が求められています。研究活動においても教員は各々の専門領域の研究成果を十分に上げています。これら教員の学術業績の足跡は、「大阪信愛女学院短期大学紀要」をはじめとする各専門分野に応じた学会の学術誌に論文として記載されてきました。

今、ここに1966年（昭和41年）に上梓された本学紀要の第1輯の「序」を転記します。

「生み出す事は尊い。研究成果は、神から与えられた才能に、各々の努力を加えて稔らせた貴重な果実である。そして、この尊い稔を後世に伝える事はさらに有意義である。人間にのみ与えられた伝達能力の一端を、この小さい研究紀要に託することが出来たら幸いである。 学長 スール・セント・レア 」

ここにあるように教員の研究活動へのたゆまぬ努力とその成果を内外に発表する場の一つである「紀要」は、教育・研究活動をより高度なレベルに高め、その成果を社会に積極的に情報発信していくことを目的に、現在まで50号を定期的に発刊してきました。

展開されてきた学術研究の実質的な成果として、その研究領域は時代の変遷と共に移り変わりがあるが、いわゆる人文・社会・自然科学全般にわたるジャンルから、幼児教育や女性問題、宗教教育に関する問題などや看護や環境に関する研究に至るまで多岐に涉っており、社会にインパクトを与えるような研究成果も広く取り上げられています。こうした教員の意欲的な研究姿勢は、学生教育・教科教育に様々な点で好影響を与えていることは言うまでもありません。今後ともに学生にその研究成果を還元できるように教員の益々の研究進捗を期待するものです。

「紀要」50号の発刊にあたって、現、研究紀要編纂委員会の委員長はじめ委員の方々ならびに50年の長きに涉ってその出版事業を支えてきて戴いた、歴代の委員長をはじめ委員の皆様方に心からの感謝をお捧げしたいと思えます。

また、本学には2種類の付属研究所が設立され、各研究所が定期的に研究誌を刊行しています。生命環境総合研究所では学術誌「人と自然」を、児童教育研究所では「研究所報」を発刊しています。併せてご高覧いただければ幸いです。